

第56回愛媛・父母と教職員の教育研究会

2019年10月26日(土)

会場：ピュアフル松山(愛媛県勤労会館)

オープニングアトラクションより

弾き語り：ガチャピンの相棒



★ 『青春の証』 ガチャピン詩・曲・演奏

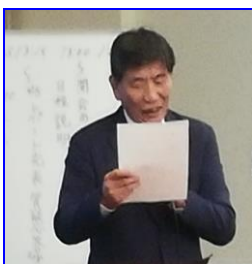
♪♪ シケベン付き合えと(改作：試験勉強の意) 帰り道に誘われ
そのまま下宿行き いつの間にかコップ酒に手が伸びて
夜も更けた 終電がなくなってしまうなんて いつものことさ
起きればもう日は高く 「夕べは熱くなりすぎたのかなあ。」
なんてあの日の出来事 忘れられない 僕達にはあったんだ
青春の1ページ ~ ~ ~ ~ ~ \ (^o^)/ ♪♪

参加者感想

- 温かさとりズム感を実感しました。「愛媛教研といえば、フォークギターがある」と感覚的に受け入れるようになりました。
- 味わい深い詞とロメディー。7年前の曲とありましたが、新境地かなと拝察しました。

開会あいさつ抜粋

越智 勇二さん：愛媛に民主教育をすすめる会 会長



神戸市立東須磨小学校での教員間のいじめが報じられています。「子どもたちにいじめはダメと教える教員にいじめはあるのか」と訊かれます。残念ながら「あります」と答えるしかありません。

年間授業時数は現行 980 時間(移行期 995 時間)が、2020 年度から 1015 時間(小6・週 29 時間)になるという。人は増やさず仕事を増やし、良い成績を出せと圧力を加える。教職員にストレスがたまり、精神疾患による病休が高水準になり、いじめが起こるなど、健全な労働環境ではありません。社会全体で、教職員の労働時間短縮を考えないと、良い教育環境は望めません。わたしは、各学校現場で、よく話し合い、校務分掌を公平にして、教育目標も十分合意できるものであれば、無理な意地の張り合いもなくなり、協力し合い、支え合う教職員集団は可能だと思います。円満な労使関係と、男女の協力、ベテランの経験と若手の活力のいいバランスによって、全教職員で教育に当たることが理想ではないでしょうか。いじめなどしている場合ではありません。

さて、今研究会のテーマ、福島は今。2011.3.11の事故後の現実を直視しなければなりません。私たちの近くにも伊方原発があり、3号機が稼働しています。そこで出る核廃棄物の処理は、青森県の六ヶ所村のウラン燃料の再処理工場でさえ、ストップしたままです。ましてやプルトニウムを使ったMOX燃料の処理は、全く計画さえありません。水を張ったプールで冷やすのにも、乾式キャスクに入れることができるまでに冷やすのに、ウラン燃料では15年のところ、MOX燃料では、300年以上かかるといわれています。発電しなくなっても、つまり利益を生まないのに、冷やし続けなければならないのだから、周りの住民や、愛媛県など自治体に重い責任がかかってくるのではないのでしょうか。中央構造線という世界有数の活断層が近くを通り、南海トラフによる大地震・津波も予想される中で、福島は今他人事でないはず。目をそらさずに見て、聞いて、考えましょう。

福島での小児ガン

(1)2015.12.11 東日本大震災復興及び原子力問題特別委員会（山本太郎HP）

- ・甲状腺ガンは100万人に1人（日本原子力学会誌 2011,10）
- ・福島では38万人に153人（福島県民健康調査 2011～2015）
- ・環境省の北島氏は「過剰診断の可能性が高いとの記載されている。」、甲状腺検査評価部会部会長の清水氏は、「予想を超えるような多発が起こっていることは事実です。」

(2)福島原発事故と広島原爆

- ・原爆による被ばく手帳を持っている人が25万人。原爆症認定患者は1万人。
- ・福島原発事故では被曝手帳はない。被ばく認定者もいない。労災はある。

(3)伊方原子力発電所

- ・大量消費地の松山市とは離れた場所
- ・近くの集落とも離れた海側
- ・原発から600mのところ活断層があるという研究もある。

(4)ウランはあと100年

- ・ウランの埋蔵量は後約100年。
- ・高レベルの使用済み燃料は、そばにいと2秒で人は死ぬ。
- ・安全になるまで10万年かかる。

(5)世界一厳しい基準？



	ウクライナ	日本
飲料水1L当たり	2Bq以下	10Bq
主食1kg当たり	20Bq (パン)	100Bq (米)

*ウクライナはチェルノブイリ原発事故が起きた国

(6)政府の方針は？

「確認されていない」「結論がでていない」などのあいまいな表現は「不安をあおる」。だから、はっきり「ない」と断言する。影響が「ある」は全て「風評」である。

参加者感想

- 甲状腺ガンの話が心を痛める。自分から「知ろう。」とすることが大切。
- 福島では甲状腺ガンになった子どもがたくさんいることを隠す。日本政府は福島の方のことをどのように考えているのかと疑問に思う。



DVD 上映 「福島は語る」 証言ドキュメンタリー

監督：土井 敏邦さん (ジャーナリスト)

～ 福島は今～

震災で追われた人びと。それぞれに“違った涙のいろ”がある…。

原発事故から8年が過ぎました。日本は、2020年の東京オリンピックに向けて浮き足立ち、福島のこと「終わったこと」と片づけようとしているように感じます。しかし、原発事故によって人生を変えられてしまった十数万人の被災者たちの心の傷は疼き続けています。100人近い被災者たちが

ら集めた証言を丹念にまとめました。その“福島の声”を、忘却しつつある日本社会に届けたいと願うこの映画を制作しました。（土井敏邦 監督「福島は語る」公式サイトより）

上映を終えての参加者感想



- 思い出すのは 2011 年小学校 5 年生の社会科を受けもつ専科教員だったので、授業で震災のことや福島のことを教材に組み込んで取り扱った時、愛媛が無風に思えたので「あまりにも大きな事故だったから、今は動きが静かだけれど、これから大きな変化が社会に起こってくると思うよ。」と子どもたちに語ったことを思い出します。今日の DVD を観て、被災者は事故によって苦しめられただけでなく、事故後の対応によっても苦しめられていた。という事実を知らされ、悲しい思いでいっぱいです。わたしたち自身も目をそらされている社会のありように、向き合わなければいけないと思いました。
- 今までに福島のごことは、色々上映されたのを観てきましたが、今回は、よくお話を聞き出していることに感心させられました。
- 放射能に汚染されていない物を食べたい思いと、福島で農産物を作っている方、漁業をされている方の大変な思いを観ると胸が痛い。被災された人びとにとっては、3 月 11 日は思い出したくない日であり、何の罪もないのに言われぬ中傷をされる子どもさんのことを思うと、どんな思いで再稼働を考えているのかと怒りしかわかない。
- 「好きでこんな状態になっているのではない。」「理解してほしい。」「ふるさとを言えない。」部落差別と同じだと思った。フクシマのことを知り続けよう。そして、他人事ではなく、「もし、自分だったら。」と、考える児童生徒を育てたい。
- 当時の救護活動についての話を聞いたり、ドキュメンタリーを観たりする機会は今までに何度もありましたが、今回は福島で生活をする人、していた人の“なま”の声を知ることができた。原発があったばかりに、抱かなくてもよかったはずの負の感情を多くの人抱いたまま今も生活をされていることに胸が痛くなった。ただ、自分も例えば“福島産”と聞くと放射能のことがよぎり、どうしても避けたくなくなってしまいう気持ちがあるので、農家の方の思いと自分の思いとのジレンマを感じる。これら原因となっている原発には反対の気持ちでいようと、今日、改めて考えた。
- 福島の事故により、人とのつながり、故郷も農業が失われましたが、危険な原発があること自体が、このすべてのはじまりだと思いました。「人と原発は共存できない」ことを自覚し、脱原発運動を根強く広げ、人とのつながりを取り戻し、復興活動をしていくことが大事だと思います。
- 福島で起こっていたこと。今も起り続けていることを忘れない!!「絶対、福島で最後にしてほしい。」「再稼働をやめて福島県に対する復興は原発をなくすこと。」との言葉を受けとめないといけない。自分の故郷を言えない子どもたちの辛さを知れ!! 故郷は原発を許さない!!

意見交換

- ★ 子どもたちの甲状腺がん、被爆手帳を持たせようという運動をすすめてきた。しかしそれを持つことで差別される。という事実もあった。原爆を受けた被害者達は長い運動を続け、手帳をもらうことになった。それを受けることにより医療費が無料になったり、被爆の状況影響がわかってきている。子ども達の様子も記録していかないといけない。福島は今追い詰められている。被害者なのに追い詰められている。立地の時点で夫婦の仲を裂くようなことがあった。つくづく分断をする罪な施設だなあと感じた。今の福島は伊方で愛媛で起きないともいえない。気持ちが重かった。

- ★ 福島で最後にして欲しいと訴えていた気持ちを大切にしないといけないと思った。今朝伊方に行っていた。大型バスがやってきた。宇和島の小学校が見学に来ていた。子どもが伊方原発のゲート内に入っている様子に驚いた。子どもたちを入れていること、なんでできるのかと思った。土曜日に見学に行っているのは、学校行事？ こういうことはやめさせられないのかという意見が上がっていた。
- ★ 被害を受けた人同士を分断している構図があった。水俣も同じ。どこから来たのか、ふるさとを名乗れないという点は同じ。部落差別も同じ。水俣市内では水俣病の患者は少数派。だから教育も進んでいなかった時期があった。市教委が学習をしようという姿勢になり学習が進んだ。福島も同様で、被害者側か企業側かの立つ位置がさまざまな家族があり学習できないのではないかと。給食も福島県外のものを入れようとしているが、非国民と言われることもあり、闘いながら生活している。
- ★ 原発、日本の差別構造が関わっている。高浜原発の問題でも、事実でないことが流布されている感じがある。事実をしっかりと見る目をつけられないといけない。日本は滅ぶのではないかと危惧している。
- ★ 伊方原発をとめる会。市民活動をしているが国策であるため進まない。福島付近で地震は起きないと言われていた。地震は予知できない。熊本も地震が起きると考えていなかったようだ。1000ガルを超える地震が2000年以降15回起きているのに、四国電力では650ガルを超えるような地震は起きないとしている。裁判所でもそれも認めている。1000ガルから2000ガルの地震が起きるのではないかと高知大学の岡村先生は言っている。住宅メーカー（三井ホーム）は5115ガルの住宅を作っているのに、原発はそれよりも低い。国策には逆らえないのか？
国策を変えないといけない。政治を変えないといけないのではないかと。
- ★ 18歳の孫、支援が必要。安全に10万年管理しないとイケない。どうしたものかと思う。原発は知らない。東電の事故責任の裁判の無罪判決は理解できない。原発いかんという連れ合いの意見を聞き、少しは脱原発の世論は進んでいるのかもしれない。政治を変えないといけない。



会場の様子

子どもたちと教職員の生活を守るため、共に考えましょう！

私たち愛媛教職員組合は、年に数回、研修会（研究会）を開催し現場での力量を高めています。ぜひ、ご参加いただき共に学びましょう。
質問や感想がございましたら、お気軽にご連絡ください。



〒790-0813 松山市萱町6丁目42 コーポラスかやまち1F

TEL(089)924-4546 / FAX(089)924-4403 / e-mail jtuehime@lime.ocn.ne.jp

HP <http://jtuehime.sakura.ne.jp/>

愛媛教職員組合 書記長 堤 剛